



畫本西遊八傳

一編

九



2500  
40-19



門 遠 21 軒  
號 2500  
巻 40-19

油漬

繪本西遊記二編卷之九

油漬

前章之下回



斯く八戒八門前ふまきり出師又ふ見く曰這屋更ふ任る人なり但  
 樓閣の帳の裡小具乃骸骨あり。是をわんぐんれ亡霊の屋  
 小やとくろぐんれれども一個の造化を串樓の傍ふ此錦綉綿衣有  
 小ふたり取くききりい。此因天氣寒々れ師又編衿を脱く是を底  
 下小穿く冷を免けり。三藏が曰不可不可已小律小曰や公取竊  
 取皆為盜し。人乃知覺あり。断然是竊盜の罪を鉢へん快く  
 往く原所小搭在よ。我ふも此小在く風を避孫悟空同きこみ  
 往く路をまきと。八戒が曰師又放心く四顧ふさふ人なり誰か  
 是を知者ありん。三藏又曰汝等もや暗室小心を虧く死ハ神目電

う如しとつり。疾々那所へ回々。非礼の物を愛まじうとせられし誠  
 られども。那獣子莫首聽却。三藏を笑ひ。師又穿玉。ほとんハ老猪是  
 を穿く。寒冷を防ぐとつ。汝僧も冷氣小堪。我の一衣をまじと  
 く。兩個ひく。上蓋の直綴を脱了。綿衣を着し。已小帶をせん  
 とまじ。小只着件の綿衣。忽生々。幾條の繩と斐。兩個四肢  
 を縛縛細く。是小依。ハ戒汝僧撲的一跌。起り能す。三藏是  
 を見。大い小忙。兩個が細を解んとまじ。小忽ち魔王さうり。唐  
 僧を搔擗。小奴を喚。白馬行李をく。ハ戒汝僧を曳せ。退  
 く。三個ハ夢小夢。見。い。惆累。借。今。近。莊。殿。宇。と。見  
 え。ハ。斐。ハ。妖。姪。の。巢。穴。と。か。ま。り。原。来。此。所。ハ。乃。住。処。小。行。人  
 を。拿。ハ。乃。樓。房。し。ハ。錦。綉。綿。衣。を。置。ハ。一。个。の。點。化。なり。斬

妖ハ洞中。小入。上面。小座。三藏を把。投落せ。小怪。早。ハ。推。伏。ハ。細。め。り。妖。廣。鏡。の。眼。を。瞋。ら。ハ。三。藏。小。向。ハ。曰。汝。那。方。の  
 賊。和。尚。小。ハ。怎。麼。胆。大。白。日。裏。小。我。衣。服。を。偷。盜。ハ。三。藏。涙。を。流  
 一。ハ。曰。貧。僧。ハ。是。東。土。大。唐。の。者。歎。差。小。ハ。西。天。小。往。經。を。要。う。ハ。寸  
 毫。小。這。里。小。ま。じ。り。肌。餒。小。臨。ハ。徒。弟。を。ハ。ハ。小。を。乞。ま。り。ハ。小  
 い。ハ。飯。ア。ま。ま。さ。す。曾。ハ。他。ハ。言。小。陸。小。怒。ハ。仙。庭。小。ま。じ。り。寒。風。を  
 避。徒。弟。の。回。を。待。ハ。ハ。小。不。期。ハ。這。兩。個。ハ。徒。弟。撰。小。衣。物。を。合。手  
 出。ハ。ハ。大。王。乃。機。會。小。中。ま。り。万。望。慈。憫。を。と。れ。ハ。我。亦。を。饒。ハ。西。天  
 小。赴。う。ハ。ハ。永。ハ。大。王。乃。恩。德。を。註。ハ。東。土。小。回。ハ。千。言。小。傳。ハ  
 ハ。妖。精。呵。々。と。笑。ハ。曰。我。人。乃。鏡。を。穿。ハ。ハ。唐。僧。を。捉。ハ。ハ。一。塊。の  
 肉。を。吃。ハ。者。ハ。髪。乃。白。ハ。黒。ハ。ハ。落。ハ。ハ。由。更。ハ。生。ハ。ハ。不。光



山神化老翁  
告唐僧横難

行者

西遊記二編卷六

長生をくくむとや。今日招きさるる自らきさるるを大なる造化かれ  
 何と饒とともあつと但一那各飯を請ふ行行徒弟ハ名字を何と  
 呼何方小往く化務とるや。八戒是をせよ。那を懼さんと称揚と  
 曰。我師兄ハ五百年前大ソ小天宮を闹がせ一各天大聖孫悟亦是ん  
 妖ハ是を皮心中些一怕を生くかりく。久一那厨が神通廣大  
 なる成ゆ。今不期會んか。小的をく唐僧師徒をば迎小彼亦  
 だ置せ孫行者を防ぐ用意をぞ段々。孫行者はうらうらとを夢  
 みのあす。南庄の人家あつ一鉢の各飯を把雲を踏く。旧路小江  
 返。往小山坡の平なる所小至り雲を按下く。小我棍め。画  
 くる園子ハ在な。唐僧師徒馬行李も小見えされハ彼里此方  
 を回看どの更小口をす。那樓臺とらん。其形方く。只山根怪石

くと眼小遮きを敷息く。曰。師又我禁戒を守す才妖ハの毒手小  
 添。あつと急小馬蹄の跡をたつ。西小向く行り五六里小及  
 処前面より一個の老翁。遺衣煖帽を著。手小一根の竜頭棒を  
 かり。後迎小一個の童僕を跟着念歌てきさる。小逢行者向く曰  
 老翁。三つの和尚馬を引く行小逢。おすや。老翁曰。前小三人  
 の和尚路を錯く往。成ん。一定妖怪の口ふる。行者  
 曰。息見之何の妖怪。何方小住。や。万望老公。知む。指南。人  
 我其所小取索去ん。老翁曰。這山。金兜山。呼山。前小金兜洞  
 あり。洞中。小魔あり。名を独角兕大王。と。那者。神通廣大。一々  
 威武。高強。方り。那。三衆。断。他。が。為。小命。を。没。し。つ。ん。汝。り。た。う  
 ね。行。む。も。小命。を。失。し。行。者。謝。く。曰。老翁。を。ま。ま。う。勞。せ。り。我。豈



大魔王



孫行者大戰

妖怪

行者

西遊記

師又を尋ひてさうし北岳飯八剛のとも汝小と乙とと。鉢を把り授け  
 一与しと守。老公羽慌く捧を捨本相を現し双々々跪下と曰まハ  
 小神ホハ此山乃山神土地なり。茲小有る大聖を候接いなり。大聖法  
 力を絶し唐僧の難を救ひ出し人を待此岳飯を唐僧小献  
 大聖乃至泰至孝の心を顕さん。行者喝と曰汝這分貨とて  
 小我さるる汝さるる早く慇懃小迎ふべし小却と這般小頭を藏  
 一尾を露つを挙動をなると何ぞぞ土地怕と曰大聖性急を  
 れも犯威顔々と針王像を喪と告とせ進をたり。行者曰汝  
 小此鉢益を収頭王我妖人を降し唐僧を救ひ出さむ捧け  
 きと。土地山神道領と退た去行者庖皮の裾を拽起金箍棍  
 を把り運小山乃前小まり到り妖洞と尋ひ山崖を轉り過る

小只看乱石磷々々々翠崖乃辺小兩扇の石門あり。門外小針  
 夢乃小妖ありと鎗を論し釵を舞。行者走り進み高く吟  
 乃り小妖早く去り汝が洞主小説せよ。我ハ唐僧の大徒弟孫悟  
 空なり快く師又を送り洞を出せよ。さあ糸小汝ホク一命を  
 免しとまんと罵り那小妖も急小洞裏小へ斯し通報す  
 ナ頭是を皮と誘り曰我本宮を離れ塵世小降りまるとり更  
 小武技を試せ今日他きられ必まて死敵手なりしつぐ汝ホ  
 眠を覚させんと即ち小妖们小命し一丈二尺乃鋼鎗を取寄  
 群妖を降ぐ門を八掌小開せと跳り出ふ。行者是を力ん進くと曰  
 孫外公這小在汝漫怪我師又を捉り快く送り回しと罪を謝  
 せよ。此三つの中遅滞む其身死しと葬る地なりと那妖魔

朝あさこゝの汝が大胆だたんの淫いん猴こう猪しゆ何なんの武ぶ技ぎ有あるる斯かく大だい言ごんを吐はや。汝が師し  
又また我われ衣い服ふくを偷ぬす盗ずしるもも又また小せう是しを拿と手て任にん王わう今いま已すで小せう煎せんしる吃くし  
とす。汝がり我われと勢せいひを比ひを只ただ三さん合ごうを圍まひつハ唐たう僧そうホう命めいを饒にう  
さんさんかり三さん合ごうを合あひつむむととバ汝がも一いち様やう小せう屠と殺ころしる酒しゆ乃の看かんとせし  
行者ぎやう口くちを開ひらかかすす大だい小せうここののハ。汝が狂きやう妖やう口くちを講きやうを休やすみみ逃に走そうしるとと我  
此こゝ一いち棒ぼうを吃くしるととつつひひままなな撃うちちしる鬼おにままハ妖やう怪かい也なり鎗しやうを論ろんしる相あひ迎むかふふ雄  
戦せんふふとと三さん十じゆ余よ合ごう更さら小せう勝しやう負ふを分わかかすす那な妖やう大だい行ぎやう者しや乃の捧ほう法ぽう正しやう  
くく一いつ點てん乃の破は綻たんを死しををんん不ふ覺かく賞しやう歎たんしる這こゝ老らう猴こう天てん宮みやうとと同  
ガガ母ぼハ中ちゆう事じナナリリトト鎗しやうを以もつつ小せう妖やうを魔ま丸まわ一いち各かくホホケケレレトト下げ知ちし  
々々レレハ小せう妖やうホホ各かく刀たうを拿と手て鎗しやうをを持もつつ。行ぎやう者しやをを開ひらかかすす十じゆ方ぽうトト攻こうままれれと  
也なり。行ぎやう者しや公こう然ぜんととくく怕おそまま手て如ごと意い捧ほうをを使つかひひ前まへ小せう迎むかへへはは小せう架か取と取と小

除しよ東とう小せう攜けいく戦せんひひ々々ガ。那な群ぐん妖やうも敢あへへ退たいへへととせせ命めいを抛なげげ  
進しんみ戦せんハ行ぎやう者しや焦しやう燥そうく金きん箍こ捧ほうををととりり空くう中ちゆう小せう丟あけけれれガ。那な棍こん  
婆ば一いつ々々千せん百ひやく乃の鉄てつ棒ぼうととなりなり。ははかかくく靴くつ蛇へび奔ほん蟬せみ乃の々々空くう裏うら小  
盈えいく乱らん落らく々々レレガガも勇いさみ一いつ群ぐん妖やう大だい小せう孩がい丸まわ魂たま飛ひ魄はく散さんしる嗚う子し  
を散さんままととくく悉しつく洞どう中ちゆうハ逃にげげ入いりり。妖やう王わう是しををんん々々啼な々々とと冷れい笑せう  
ハ野の猴こう无む礼れい乃の手て段だんををかかすす勿なままととくく已おりり袖そで中ちゆうトト一いつ個このの  
圈くわん子しを取出とりり一いつ空くうを望のぞみみ抛なげげ起おしし一いつ声せい叫けうぶぶとと各かく々々不ふ側せうヤヤ千せん百ひやく乃の  
鉄てつ棒ぼう原げん乃の一いつ條じやうととなりなり妖やう怪かい乃の手て小せう落らく下かるる。妖やう怪かい早はやく圈くわん子しとと捧ほうを  
取とりり々々レレガガ孫そん行ぎやう者しや大だい小せう駭がい丸まわ赤せき手て空くう拳けん一いつ々々命めいううくく逃にげげるる  
是こゝ小せう妖やう乃の行ぎやう者しや朦もう朧ろうととくく全ぜん張ちやうを失なくく這こゝ正しやう小  
道だう高かう一いつ尺せき魔ま高かう丈ぢやう 性せい乱らん情じやう昏こん錯さく怒ど家か



可恨法身无坐位

當時行動念頭差

尚下回を肴分解しあふを

心猿空用千般針

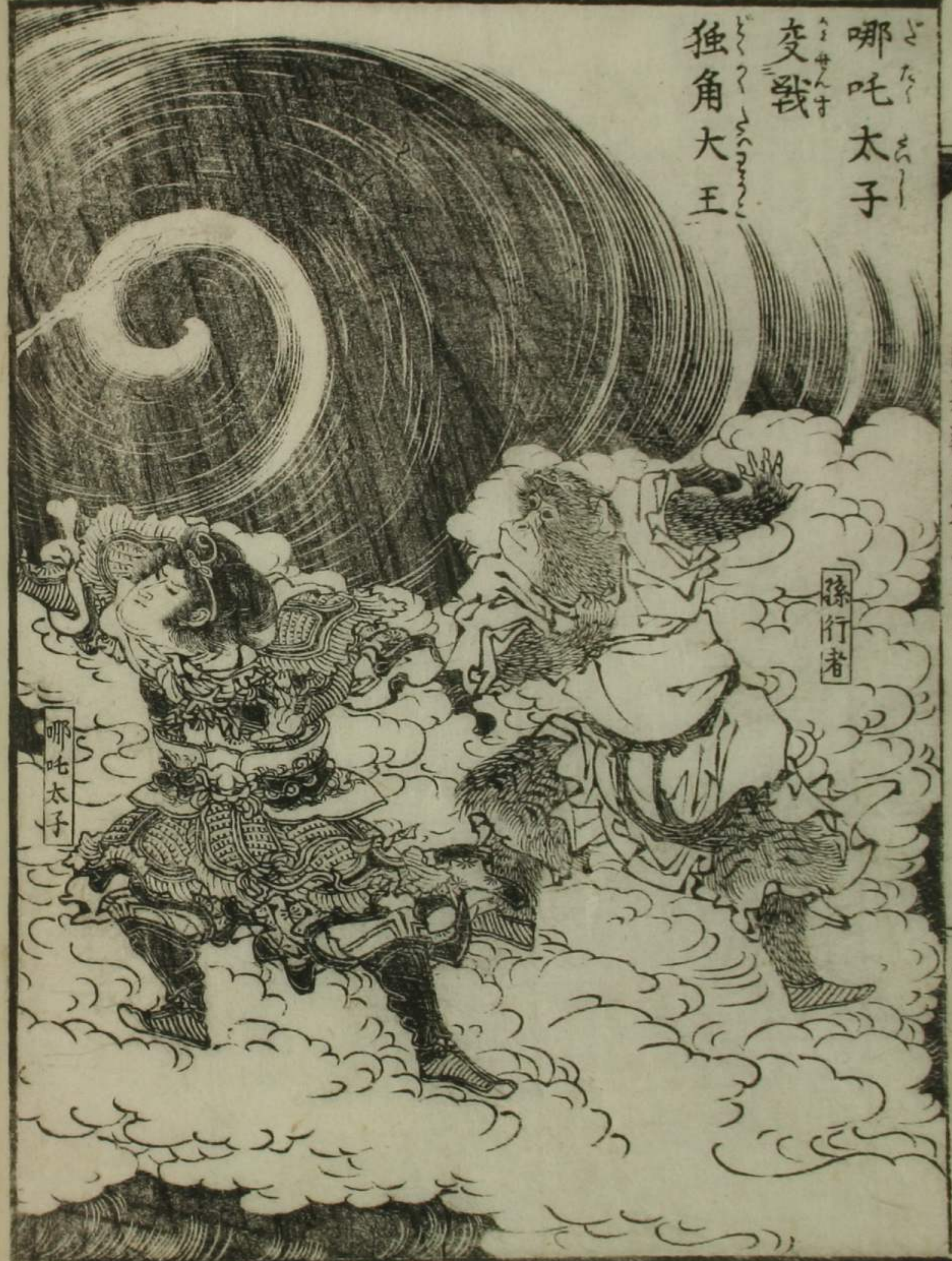
水火无切難煉磨

話說大聖空しく敗陣金兜山乃ほ小坐しく兩眼小怒羽を垂  
 く叫ぶ曰師又我禁絨を用ひむ又此大難小遇今我至杖を  
 小奪れ空拳めく息の功を成ぶれと恨を憤るるそ又因成  
 行者位と心中小おりり那乃我を怒ほく天官を闹せし由本  
 かりと云をり考き一定天上の兜星下界小降りし悪吏  
 を擅小をりわら我上界小昇り查勘せんと急小金斗雲小駕  
 へ南天門より走り入靈霄殿乃陛下小跪下玉帝小拜謁金兜  
 山の妖小唐僧を捉へ苦しむる趣を奏し願くは醒斗を查

一玉りのみへと啓奏しそれを玉帝孩たむひ急だ可轉司知道小勅  
 一と緒天の星宿神王の裡下界へ下りし者ありや否やと查さ  
 せり可轉奉りり満天の星斗を查とらうと虫吏小下界へ降  
 一者ありとされ速小回さく斯と回奏と玉帝史良斯のてくを  
 らむ天將を撰り孫悟空小加勢させ妖小を擒小せよと維那  
 と評議あふ小托塔天王哪叱太子小如べく守とら則ち那又子  
 勅命の趣を傳らう天王又子旨を奉行者と面會しく預め  
 討を定め衆部乃天兵并小九府天の鄧化張蕃と云二人乃雷公  
 を引率し進小南天門を下り頃刻の間小金兜山小降臨し今  
 日の先鋒と哪叱太子と定め那二個の雷神ハ雲端小在り太子  
 と妖小の闘小最中小雷公を下り味方乃勢小を技け妖小威



独角大王



哪吒太子  
變戰  
独角大王

孫行者

哪吒太子

を拉ぐ。と。已小商議決。これバ。行者太子を引く。洞門小進。大音小滌。快く門を開く。我師を還せと。呼はつ。小女童之を引く。急小徑。小入。王小告。曰。孫行者。一個の童將を領者。外。きり。喧嘩。いと報。これハ。王急小鎗を把。門外。小ま。之。到。那童男を看。小相見。清奇。小。男。社。常。人。小勝。小。妖。冷笑。汝。是。托塔天王の孩兒。哪。吐。今。何。う。為。我。門。前。小。き。無。礼。を。な。や。太子。罵。曰。汝。滌。廣。猥。小。暴。惡。を。逞。一。唐。僧。を。捉。困。害。し。む。玉。帝。の。欽。差。を。奉。時。小。快。く。来。つ。我。劍。小。伏。せ。と。呼。う。を。バ。王。大。怒。黄。口。の。獺。何。そ。う。大。言。を。吐。中。鎗。を。撲。刺。煎。生。小。太子。斬。妖。劍。を。使。ひ。相。迎。一。往。来。し。挑。闘。行。者。何。分。と。急。小。雷。公。を。

呼早く雷掬を放く太子の勢力を援より。令をば。鄧化張。雷の二雷雲光を踏ぐ。已小手を下きんとす。這。何。哪。吐。太子。斬。妖。劍。を。持。妖。女。を。斬。し。進。め。妖。女。も。變。り。三。頭。六。臂。と。なり。手。小。三。柄。の。長。鎗。を。拿。手。抵。任。太。子。降。下。の。法。力。を。奪。ひ。那。六。般。の。兵。器。砍。妖。劍。斬。妖。刀。縛。妖。索。降。下。杵。繡。謎。火。輪。見。斬。妖。劍。斬。妖。劍。是。亦。乃。物。を。把。大。小。叫。一。声。を。那。兵。器。變。小。千。萬。の。ち。く。ち。恰。も。氷。雹。の。散。が。空。小。ま。ね。張。雨。と。疑。り。身。小。白。圈。子。を。取。出。空。を。望。ぐ。抛。起。一。喝。を。声。小。應。り。六。般。の。兵。

苦番く妖乃の手小入れ。太子大り小慌。詮方なく赤手振く敗退  
 む。妖乃の圈子を収め兵器を奪ひて洞中へぞ回る。邪化毒  
 の二雷此軀を足く力を落し雲頭を接落く太子と俱小山南の  
 坡下小至り各々高嶺を登る。行者が白那廝が神通廣大なる上  
 小不側り宝貝を打ち玉揚と毎く緒物を取収む。是を  
 何ぞ叱搭天王が白所詮那廝を亡くす。水火小ふく。行者  
 ぞ曰。是甚き理あり。老孫天小登りて災惑大徳星君を結き  
 くり。火を放つ。那恠物を焼亡し。奪れ。兵器小我師を  
 救ひし。緒神小別と雲小棄り。迷小南天門の内小至り。子細を  
 告ぐ大徳星君を結く。星君領導く大部乃神兵を隨へ行者と  
 とも金兜山小到り。天王雷公と相見り。手配を定む。叱搭天王が曰

孫大聖。至りて妖乃を門外へ釣出し。那廝出き。我他  
 戦ひを交へ。其時大徳星君衆を率て他を焼亡し。衆尤と  
 曰。即ち行者洞中に到りて。妖魔出よと罵り。名を那大王衆  
 妖を引率し。迅風乃巻く。勢ひあつ。洞中躍出。曰。汝這淫  
 と何ろ兵を請き。や。終ぎ。叱搭天王眼を認りし  
 大喝。曰。淫。頭我を怒り。や。大王笑。曰。汝叱搭王我面前き  
 手も汝が今即の仇を報。兵器を取返さ。と。や。天王が曰。小ハ  
 仇を報。兵器を奪回。二。小ハ汝が首を。唐僧を救。之。為。く  
 汝敗。之。す。我。一。刀。を。吃。妖王冷笑。以。長。鎗。を。相。迎。兩。個  
 洞前。小。在。戦。ふ。者。何。分。と。大。徳。星。君。小。令。し。れ。を  
 星君結。衆乃大神を。一度。小。火。を。放。し。む。小。妖。王。火。の。来

ろ成んく些も恐むす那乃園子を力門く空を望み投起きて  
 寶貝を鳴響音く大徳君が使所乃大龍大馬大鴉大龍大刀十  
 箭等を来心く取く収り勝利をほく洞中へ引退く大徳君を憫  
 一得乃空旗を把く衆將を招た返く天王行者と會合して  
 再度拜儀小及く衆神白那兎六既小火をも恐むす此上如何  
 なる謀をう用ひ行者が曰他今火を恐むすと察しし水水を怕  
 まく我再び天小昇り水徳星君を結きりて水勢を施し他  
 が洞裏小大水を灌た王を没死し奪れり多孟物を取還し  
 く汝亦小還し師又を救く衆是小何れを行者よる勦斗  
 雲小駕く徑小北天門小何れ鳥浩宮小入り水徳星君小謁し  
 妖ナが兎勢を統何卒我力を扶け妖人を降し師又乃難

を救ひりし憑り水徳星君領掌し即因小黄河乃水伯小  
 命し汝亦我孟兒を把く黄河乃水を没大聖小隨く下を降  
 せし今も行者舞王問く曰那盆兒何紆の水を盛めや水伯答  
 く曰此盆見よく黄河乃水を盛尽し行者愧び水徳君小別し  
 出立きむ水伯盆兒を把黄河乃水を平盆没く行者小跟  
 ひ金兜山小看く行者水伯小命し曰我洞口小徑く呼くむ  
 妖人一定門を開く出きし其因汝亦門乃裏小入一度盆兒  
 を倒く洞中の群妖を残りす滄殺せよと命くれ水伯是も隨  
 ひ行者小緊隨進く行者例乃洞門小到りて滄早く門を  
 開けよと呼く独角兎大王是を皮く那寶貝を帶鎗を縛りて  
 石門を開く所を水伯はしりと王盆を把く門内へ一度覆ハ

忽ち洪水門内へ漲り至りし守王水乃きさるを乃々邪因子  
 を取出し二扇の門をさし開く只看那水骨都々々々鳴り  
 門外へ溢き出る行者驚き急小筋斗雲を縦ち水伯と俱高  
 峰小跳し上る天王又子諸神亦初より平空に在る觀居し小  
 那水波濤泛漲溢るれ行者水伯に向ひ水己小妖洞へ入り能  
 く却り四野小漫る民田を海し荒し万民乃憂患をな  
 し早く収りよ命しれども水神頭を搔く曰小神水を放つ  
 べらばされも却り水を収むるを會得せむと辞せ行者  
 惆呆奈何せんとかひ煩ふ所小京来那山高俊るれ水乃只低  
 たり小きり流き須臾乃向四方乃洞壑小飯しり然るふり  
 洞外より幾個の小妖跳し出棒を弄鎗を指し旧のてきききと

しとよひ要子なれ行者腹小もえり憤怒を棄し隻手乃握  
 拳を揮回し喚り洞門の前小弛到き小妖们驚き急早々  
 門内へ跳入大王斯と報く多ふと妖乃倒り鎗を提門を出し曰  
 這小猴幾度う我小闘ひ肩なかり耻辱をもち又また何う  
 をらせんとせしや行者大い怒り汝澆さきさる孫外公の一美手  
 成吃へし呼りりれれ大王大い怒り汝乃拳頭ハ只核桃太きふ  
 似たり皆王乃ハ拳の勝負せんし長鎗を投捨袋を擽進し寄  
 兩個拳を上るを乃々ふさなぐ二個の鉄槌乃々斯く行者と  
 妖乃互小拳勢を逞しうううう合なれ衆神是を乃々一合進  
 り行者を助し六洞中乃群妖の旗を揺り鼓を播り一度小進  
 来る行者ハ妖乃小勝しを倒し毫毛を一把拔りり空を望んで



孫行者  
 請火徳  
 星君二  
 雷公

西遊記

四

西遊記

三

撒ち一あ起あままをお即すちま変かわり三さん十じゅう五ご個このこ小こ猴こうとし做し一いち擁ようとし那な妖やくを  
 をを纏まと住す腿たいをを抱かかりし腰こしをを引ひ眼め鼻びももここ手て搔かく公妖やく怪かい大だいのの小こ慌わうて  
 急きゅう小こ園えん子しをを把つか出だとし行い者しやもも緒お神しんもも他たのの園えん子しをを弄もををんん急きゅう小  
 走そう高こう峰ほうへへ退たいれれ逃のがれれ妖やく女にょ大だいもも園えん子しをを抛なりし小こ猴こうとと悉しつく取り取ぬ  
 めめ兵へいをを領りやう一いち洞どう中ちゆうへへ入い緊きんくく門かどをを鎖さししりり行い者しや衆しゆ神しんとと衆しゆ一いち邪  
 ナなトと園えん子しをを使つか奈な何なにとと勝かちをを得とんん托たく搭たつ天てん王わうがが曰いふふ他たのの勝かちん  
 了りやう成じやう要やうをを那な宝ほう貝がいをを奪うばひひ然しかとと後ご橋しやうふふをを登のぼりり行い者しや白はく然しかととバ  
 老らう孫そん忍にん行いくく偷とままききととんんとと迷まいい小こ峰ほう頭とうをを跳た下げりり暗あん小こ洞どう口こうにに至いたりり  
 身みをを搖ゆくく蒼そう蠅じやうとと做し越えつぐぐ門かど内うちへへ入いりり小こ衆しゆのの小こ妖やく女にょ両りやう辺へん小こ排  
 列れつ老らう大だい高こう臺たい上じやう小こ坐ざしし蛇へび肉にく腐く肺はい熱ねつ掌てのひらかかんんとと妖やく女にょをを懼おそれれしし  
 笑わらひひ酒しゆをを飲の居ゐりり行い者しや子し細こ小こ窺うかがひひもも那な宝ほう貝がいををんんととも

何方たつど小こ置おけけとと轉まわりり臺たいののほほ小こ至いたりり小このの廳たい上じやうりり小こ徳  
 君きみ乃の使つかひひ火か竜りゆう嘯せうたた火か馬ば嘶したた那な金きん箍くわ棒ぼうをを東とうのの壁かべ小こ靠かかりり  
 ととりり行い者しや大だいのの悦えつひひ鉄てつ棒ぼうををああつつとと原げん身しんをを現あらわわりり走そうりり出でままいい  
 衆しゆ乃の小こ妖やく慌わう張ちやうたた上じやうをを下げりり發はつ動どうとと老らう大だいももおおりりひひちちねねりりゆゆて  
 惆あ呆ま忙ま忙ま然ぜんとと行い者しや早そうくく洞どう門かどをを跳たりり越えつ高こう峰ほう小こ回わいるる正せい是し  
 魔ま頭とう驕きやう傲お無む防ぼう備び  
 主しゆ杖じやう還えん歸きとと本ほん人にん  
 如にょ來らい暗あん示し王わう人にん公こう  
 結くつ鏡きやう行い者しやとと高こう峰ほう小こ回わいるる洞どう中ちゆうのの趣しゆをを鏡きやう居ゐるる小こ只ただ山さん波は  
 うう下げ小こ鑼ら鼓こ喧けんとと鳴な喊げんのの声こゑ地ち小こ振ふるりり衆しゆ神しん及およびび何なにととも  
 ややとと小こ那な兕し大だい王わう衆しゆのの小こ妖やくをを師しとと行い者しやをを趕おりり走そうりり行い者しや  
 鉄てつ棒ぼうをを提ひききりり向むかひひとと滄そう廣くわう何なに里りとと走そうりりややとと云いふふ終しゆうとともも小こ大だい王わう罵ののすす



て曰賊猴頭怎麼白昼（あ）我物を偷（ぬす）去（ま）や。行者（ごん）曰（い）這（こゝ）死（し）業（ご）畜（ぶ）也（なり）  
 こゝと多く人の物を奪（うば）つり敢（あ）て逃（に）ま（は）さ（ず）老（お）父（ふ）郎（ら）の（い）棍（こん）を吃（く）て叫（こゑ）  
 撃（う）つ（て）蒐（し）き（は）。大王（お）も鎗（やり）を輪（ま）へ（は）。隔（へ）架（が）し戦（いくさ）す（は）八十（は）余（じゅう）回（かい）さ（ず）小（こ）勝（しょう）  
 財（さい）を分（わ）か（し）ふ（ふ）。早（はや）く天色（あ）昏（く）小（こ）向（む）く（れ）。相（あ）引（ひ）小（こ）く（と）立（た）別（べ）き（た）王（おう）と  
 小（こ）妹（い）を師（し）と（し）兵（へい）を収（お）小（こ）入（い）門（かど）を緊（き）々（き）閉（し）り。行者（ごん）高（たか）峰（ほう）小（こ）回（かい）り  
 衆（しゆ）神（しん）小（こ）向（む）く曰（い）那（な）王（おう）頭（とう）老（らう）孫（そん）と數（た）十（じゅう）合（が）闕（くわ）ひ断（た）然（ぜん）疲（つか）倦（けん）れ眠（ね）り  
 登（のぼ）り。我（われ）再（また）小（こ）入（い）洞（どう）中（ちゆう）忍（しの）び（い）へ（ず）他（た）が（い）圖（ず）子（し）を尋（た）ひ（出）。偷（ぬす）ま（さ）さ（し）ら（ず）は  
 大（おほ）を降（くだ）さ（し）衆（しゆ）神（しん）是（こゝ）甚（た）か好（この）と日（ひ）意（い）を（し）れ（む）。行者（ごん）鉄（てつ）棒（ぼう）を耳（みみ）裡（ら）に  
 収（お）め高（たか）峰（ほう）を跳（は）下（り）つ（と）。又（また）洞（どう）口（くち）小（こ）至（いた）り身（み）を揺（ゆ）り（と）一（ひと）個（こ）の（い）促（そ）織（ぢ）兒（い）と  
 變（か）り船（ふね）が門（かど）内（うち）小（こ）入（い）壁（か）根（ね）小（こ）蹲（すま）り裏（うら）を窺（のぞ）ひ（と）燈（とう）光（こう）あ（ら）る（を）照（て）り大  
 小（こ）の（い）群（ぐん）妖（よう）們（めん）狼（ろう）の喰（く）ひ虎（こ）の嘍（ろ）ぐ（と）酒（しゆ）飯（はん）を吃（く）著（し）小（こ）河（が）有（あ）る家（か）伙（ふ）

を収（お）めく都（と）の（い）寓（い）鋪（ぽ）を安（あ）排（ばい）各（かく）眠（み）小（こ）著（し）約（やく）さ（し）早（はや）二（に）更（じやう）の（い）時（とき）分（ぶん）。  
 おれを。行者（ごん）そ（と）ろ（と）忍（しの）び（い）ほ（ろ）房（ぼう）裏（うら）小（こ）到（たう）り窺（のぞ）ふ（と）那（な）老（らう）王（おう）令（れい）  
 を傳（つた）へ曰（い）汝（に）小（こ）嚴（げん）く洞（どう）門（かど）を看（み）守（し）せよ恐（おそ）く（と）小（こ）孫（そん）悟（ご）空（くう）甚（た）磨（ま）小（こ）粧（じやう）  
 へ忍（しの）び（い）入（い）偷（ぬす）ま（さ）さ（し）去（ま）ん（と）知（ち）が（し）と（と）。頓（とん）く石（い）財（さい）小（こ）袋（たい）を開（ひ）た（し）け衣（い）  
 服（ふく）を脱（ぬ）去（き）を（し）る（と）小（こ）左（さ）の（い）腕（うで）小（こ）那（な）圖（ず）子（し）を緊（き）し（と）結（むす）著（し）り。扱（あ）  
 六（む）王（おう）袋（たい）を被（か）り（と）睡（ね）れ（と）。行者（ごん）又（また）身（み）を變（か）り（と）黄（わう）皮（ひ）吃（く）燥（そう）と（し）なり  
 石（い）林（りん）小（こ）飛（ひ）上（じやう）と（し）這（こゝ）く（と）衣（い）の（い）裏（うら）小（こ）入（い）那（な）老（らう）王（おう）の（い）腕（うで）小（こ）進（しん）付（ふ）一（ひと）口（くち）呵（か）け  
 きて怪物（かい）身（み）を翻（ひ）り（と）這（こゝ）く（と）小（こ）奴（に）才（さい）め（と）て（し）林（りん）を拂（は）ひ（と）  
 寐（ね）れ（と）。行者（ごん）宝（ほう）貝（がい）を偷（ぬす）ま（さ）さ（し）死（し）を側（かた）王（おう）林（りん）を下（くだ）り（と）又（また）促（そ）織（ぢ）兒（い）  
 と（し）かり房（ぼう）門（かど）を出（で）る（と）後（のち）面（めん）小（こ）至（いた）る（と）。只（ただ）步（ふ）火（くわ）電（でん）吟（いん）ト火（くわ）馬（ば）嘶（し）き（と）ね  
 那（な）層（そう）門（かど）ま（は）い（と）鎖（さ）を（し）ら（ず）火（くわ）電（でん）火（くわ）馬（ば）と（し）り（と）裏（うら）裡（ら）小（こ）は（し）り

托搭天王  
父子  
眺金兜  
山火光



西遊記卷九

く有が故なり行者茲小至平々々本身を現ハ一門前小進付解  
 鎖法を使ひ門を推開けを原来六種乃火器相照し明なる  
 白日乃ごとし行者頭を回らし四壁を乃々小東西両辺に  
 子の兵器を斜轟なり都々是太子の六個の兵器大徳君の火器なり  
 又二張の石乃菓子の上二つの盤見有て一把乃毫毛を放し置ぬ是先小  
 火取れも毛をれを大喜び合掌起て両口の仙気を吹うれは變じて  
 三五十の小猴とかな即ち是小火刀火笠前サレハ太子の六件の兵  
 器を把取せ其身ハ大龍小跨り大馬を追まゝ大勢を放ち裏  
 外一毎小焼する其音烘々烈々ししはかかす雷連砲の声小  
 似たり洞中の群妖も森然と狼狽まゝしとさふ路を火  
 勢乃為小焼殺さる者大子小及なり行者飲然とて進小高

峰(同)りきさる小岡尚二更小不過是より前高峰小托搭天王  
 衆神と坐し行者が音信を待小忽ち金兜洞小火の光り起  
 里を列位一擁し押出さる只看孫行者大竜小騎衆の  
 小猴を従へ回里きさる小逢行者衆神小向ひ声を房し曰列位  
 来つて兵器を収めよと一喝をれを衆の小猴忽ち毫毛と成  
 行者が身小復され哪吒太子喜び六件の兵器を収り徳  
 星君も衆神小命し大器を取収り口官行者が功を讃賀  
 却説那金兜洞の裏に火焔紛々として天を焦し々々  
 兕大王小獲死跳起り房門を走り出双手小那園子をとりに  
 東小推を東火滅し西小押を西火消と満空の冒煙突火云好  
 なれぬ那寶貝を執りけ廻るる一遍とれを四方の烟大都

消群妖を助け救ふをばりきれば小妖大半焼殺されは  
面小置一諸苦未だかり。只唐僧ハ戒沙僧二人と白馬行者ハ  
其終あり有。此ろと然る幸なり。妖大憤曰此大別人の放し小  
あゝと。那孫悟空又忍びきりて我宝貝を偷とせしりども。堅  
く抹動しゆの手を下とて能守却く兵を盗と火を放せり。量  
ざりた賊候小這條の手段ありんとせられども。那厨我本更と知  
そ千萬の機關を使し我を降せり。能ハ。我小此宝貝あり  
裡と大海へ入るも溺るるるなり。大地小赴し林火とて自負る  
有るる小。早鷄鳴天曉。こりぬ此阿高峰小。哪吒太子兵を  
けり心勇と行者を勧め諸神を引率し。再度金兜洞へ押寄  
此度と見服し妖を擄小せんと勇威を逞し。行者逢小

洞小至り大音小。淫怪出きり。老孫と三合を合せし叫ぶ  
小妖大つ小恐と逃る。斯と報むれば。兇大王例り長鎗を挺着  
宝貝を帯りまき出喝し曰。汝賊猴度々无状をせり。這般ハ断  
然一鎗の下小刺殺し。焼死する者乃仇を復さ。行者朝しひ  
鉄棒を論し相迎。闘いを変ゆる。哪吒太子嗔を生し。大徳  
星君の神兵大部の者を令し。妖を攻めせむ。雷公を雷  
楯を放しけ。托塔天王の刀を舉。八方より探し。されども妖  
のしゆ。袖中より暗小那圈子を取り。空中へ抛起。さし叫  
声小つ。神兵乃火雷公乃楯。天王太子乃刀鎗。孫行者を捉  
残らむと取。救めらる小を衆神の行者も又空拳となり。這  
乃鉢より高峰へ逃退。妖大全く勝利をばり。洞中へ回し小

妖まじ小こ命なま一ひとくく石いしをを搬おこひひ土つちをを動うごくく門かどをを修しゆ造ぞうしし緊きんくく防ふせ死し守しゆ

池清

繪本西遊記二編卷之九畢

池清

